


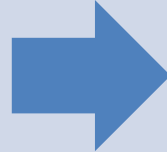
第36回審議会及び第4回作業部会 を踏まえた論点の整理

【主な論点】

1. 住宅まちづくり政策の方向性
2. 都市活力の源である人についての認識
3. 都市の捉え方、大阪の都市構造の特徴
4. 将来像や住宅まちづくり政策を議論する際の地域の捉え方
5. 大阪に住まう将来像
6. 居住魅力あふれる住まいと都市を実現するための具体的な取組み

第36回審議会及び第4回作業部会を踏まえた論点の整理

1. 住宅まちづくり政策の方向性

委員意見	論点の整理	対応案
<p>■全体への意見</p> <p>○部会ではビジョンの目次構成について意見を述べてきたが、<u>細かな文言修正の余地はあるが、ストーリー的にはおおよそこの構成でよいと思う。</u></p> <p>○<u>将来の住宅のあり方がもれなくまとめられている。その土地の持つ魅力やポテンシャルを最大限に引き出して開発をすると特徴をもったまちづくりが行われ、そういった所では強引に人口を増やさなくても自然に人口が増えていく。同時に鉄道の乗降客数も増え、色々な施設も集積し、みんなが寄ってたかって投資し、まちづくりをしてくれる。そのきっかけを作るのが民間のデベロッパーであり、不動産協会として、行政ときちんと協議をしながら今後もまちづくりに取り組んでいきたい。</u></p> <p>○<u>ハードだけではなくソフトのくらし方も含め、大阪の魅力をしっかり伝えていくことが大事だと感じた。安心安全もしっかり記載をされており、しっかりバランスを取っているという印象がある。</u></p> <p>○<u>住宅まちづくりのあるべきものとして、大阪府民が健全で安全に居住できること、付加価値をつけた住環境を整えていくイメージで捉えると、今の住まいの居住魅力を高め、他府県との競争に打ち勝って魅力づけをすることも考えていく必要がある。</u></p> <p>【第4回作業部会】</p> <p>○<u>住宅まちづくりマスタープラン(MP)にとって、このビジョンがどういう位置づけなのかを明らかにすべき。</u></p>	 	<div style="border: 1px dashed gray; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>○提示した「中間取りまとめ素案」をベースに内容をブラッシュアップ。</p> </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 10px;"> <p>○「はじめに」において、「MP改定に当たっての審議会・作業部会での議論の中間とりまとめであり、今後の政策の大きな方向性について提言するもの」であることを明記。</p> </div>
<p>■政策の方向性を議論するに当たっての論点</p> <p>○府民が日常生活の中で住まいの問題をどう考えているのかをきっちり整理する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この審議会では、大阪府民の住まいをどのようにして、もっと豊かにグレードを上げていくかを示すことが重要だと思う。<u>府民の住まいは解決していないというのが率直な意見。なぜ、府民の格差が広がっているのかといったことも解明し、解決の方法を示すような論議もお願いしたい。</u> ・都心は文化やコミュニティの面で他に誇れるようなものがたくさんあるが、なぜ人口が減っていくのか、<u>本当に住みよいまちになっているのか、現状認識も論議してもらいたい。</u> ・<u>答申とりまとめに当たり、議論すべき事項について意見書を提出したい。</u> 	<div style="border: 1px dashed gray; padding: 10px;"> <p>○住まいの安全・安心確保</p> <p>・住まいの質の向上</p> <p>・住みやすい居住環境の整備</p> </div>	<div style="border: 1px dashed gray; padding: 10px;"> <p>○答申取りまとめにあたり提出予定の意見書及び統計資料等のデータを踏まえ、<u>住まいの安心・安全の確保方策等について今後議論を深める。</u></p> </div>

1. 住宅まちづくり政策の方向性

委員意見	論点の整理	対応案
<p>○政策の展開の方向性に関する作業部会での議論内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>安心・安全をまだ満足していない住まいについては、解決に向けた継続的な議論が必要だが、そういった議論をしている間にも、どんどん体力がなくなっている状況が大阪圏に見られる。</u> ・<u>作業部会では、都市魅力の創出が達成されることによって、安心・安全をより高めることに作用するといった相互の関係が期待できるのではないかというポジティブな観点から議論があった。</u> ・<u>また、まちが住みやすくなると住宅が良くなるという関係についても相互性</u>があつて、まちが基礎で、その上に住宅が乗っていると考えていた事柄を横並びで考えていくことが、人口減少下の住まいまちづくり施策にとって有効ではないかという議論があつた。 ・<u>このように、アプローチの仕方として、従来のような考え方だけでは、これからの大阪の住まいまちづくりは、ジリ貧になっていくという認識のもとで、アプローチの仕方を変えるというのが今回の作業部会のベースにある。</u> ・<u>ただし、安心・安全の問題は、都市魅力の中でどのように関連づけていくかは、まだまだ議論ができていないし、現行のマスタープランでの検討も十分にできていないため、審議会において、今後統計資料がまとまり次第、継続して議論をしていきたい。</u> <p>【第4回作業部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>安全・安心確保の取組みを重点的に展開しているが、まだまだ課題があるという認識を示すべき。</u> ・<u>その上で、「安全・安心が確保されてから、次に活力・魅力に取り組む」といったこれまでの考え方ではなく、「活力・魅力が生み出されることで、安全・安心が高まる」、あるいは、「一定水準未満のストックがない安全・安心な状態が、活力・魅力を生み出す」といった、「活力・魅力」と「安全・安心」が相互に作用し合い、響き合うような政策展開が求められているとすべき。</u> 	<p>○新たな住宅まちづくり政策の展開の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「安全・安心確保」に重点を置いた取組みから、「活力・魅力」と「安全・安心」が相互に作用する政策展開の必要性 	<p>○「はじめに」及び「住宅まちづくり政策の方向性・視点」に以下を位置づけ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「安全・安心確保」の取組みの現状及び引き続き取組みが必要なこと ・「活力・魅力」と「安全・安心」が相互に関係しあう政策展開が必要なこと。 ・「安全・安心確保」の取組みに加え、「活力・魅力創出」の取組みをより一層展開すること

第36回審議会及び第4回作業部会を踏まえた論点の整理

1. 住宅まちづくり政策の方向性

委員意見	論点の整理	対応案
<p>■府営住宅の移管</p> <p>○市への移管が進むと市内での府営住宅はこのままでは0になるが、<u>府として市の住宅問題を解決していく責任はどうなるのか。論議しておかなくてもよいのか。</u></p> <p>⇒これまでの住宅セーフティネット施策は、府営住宅等の公的賃貸住宅の供給を中心に展開されてきたが、<u>民間や他の公的住宅を含めた住宅市場全体で住宅確保要配慮者の居住の安定化を図る方針</u>で展開している。</p> <p>・大阪市へ府営住宅を移管するが、<u>府民が一定数は入居できるよう配慮しており、大阪市も参画している居住支援協議会</u>では、民間賃貸住宅を活用した住宅の確保策を検討をしている。<u>民間賃貸住宅の中でサービスを受けながら居住の安定を図れる政策を展開し、住宅全体を使って居住の安定を図っていきたいと考えている。【事務局】</u></p>	<p>○住宅政策における府の役割</p>	<p>○答申取りまとめにあたり提出予定の意見書及び統計資料等のデータを踏まえ、住まいの安心・安全の確保方策等について今後議論を深める。</p>

2. 都市活力の源である人についての認識

委員意見	論点の整理	対応案
<p>■世代間の交流・循環</p> <p>○世代の偏りが問題化してきており、<u>コミュニティを維持するためには子育て世代と高齢者世帯が交流して住むなど、多様な世代がバランスよく揃っていることも考慮する必要がある。</u></p> <p>○高齢者だけのサービスを充実しても経費がかかるだけで、どうしても削減の話になるが、そこに子どもや若い人たちがいかに関われるかといった<u>世代間の交流、循環など、そういった視点をしっかり書ければと思う。</u></p>	<p>○コミュニティミックス、世代間の交流・循環の必要性</p>	<p>○多様な人々、世代が住まう大阪をめざすことをビジョンに位置づけ。具体的な施策については今後、検討。</p>

3. 都市の捉え方、大阪の都市構造の特徴、 4. 将来像や住宅まちづくり政策を議論する際の地域の捉え方

委員意見	論点の整理	対応案
<p>■都市構造</p> <p>○資料2-1(住まうビジョン説明資料)P. 22において、「④大阪は地域がパッチワークのように点在」を魅力としているが、そうした小さな地域のまとまりを大事にするような考え方を都市構造の方にも反映させた方がよいのではないか。</p> <p>・小学校等地域施設を統廃合してまとめるのではなく、<u>地域地域に施設が点在していて生活しやすい都市ができるという視点が都市構造としても重要である。</u></p>	<p>○身近な範囲に生活支援施設等を充実させていく方向性</p>	<p>○くらしを支える様々な機能やサービスの充実等を記載。</p>

第36回審議会及び第4回作業部会を踏まえた論点の整理

5. 大阪に住まう将来像

委員意見	論点の整理	対応案
<p>■全体についての意見</p> <p>○10の住まう将来像については、項目はこれでよいと思うが、<u>並びについては検討が必要。</u></p>	<p>○住まう像の並び順</p>	<p>○地域性を意識した住まう像を前半に、テーマ性を意識した住まう像を後半に配置。</p>
<p>○大阪府全体として取り組む共通のテーマと、地域のポテンシャルを生かしたような地域ごとのテーマで、住まい方の提案を分けることができるのではないかと。大都市系とその周辺部と、さらにその周辺をどうするかという地域性で考えると、<u>都市周辺の市街化調整区域での住まい方など、外側の話しのテーマが出てきても面白いのではないかと。</u></p>	<p>○地域特性(特に周辺地域)を意識した住まう像の必要性</p>	<p>○大阪の都市構造の特徴を明記するとともに、農山漁村での住まう像を明確化。</p>
<p>○大阪は、<u>公的賃貸住宅団地が多いことが特徴で、ストックを活かしリノベーションすることで、新たな世代が住む可能性が高く、また、将来的に家賃補助制度などが整備されていけば、従来の使われ方だけでなく、様々な人たちがストックとして活用できる可能性があり、魅力的な住まい、まちを作っていく核となる資源である。</u>その点がもう少し強調されてもいいのではないかと。【第4回作業部会】</p>	<p>○公的賃貸住宅団地を意識した住まう像の必要性</p>	<p>○公的賃貸住宅団地の住まう像を具体化。</p>
<p>○10項目の将来イメージが、<u>健全な大人の視点で書かれている気がする。</u>子どもがのびのびと育つ住まいなど、<u>子どもの視点からみて住みやすいまちといったものが表現されてもいいのでは。</u>色々な視点を混ぜてもよいかと思う。 ⇒将来イメージについては、<u>生活の主体をどこに置くか</u>ということで、10項目でなければならないということはない。</p>	<p>○子どもの視点からの住まう像の提示の必要性</p>	<p>○子ども視点の将来像を具体化。</p>
<p>○<u>住職近接と子育てをからませているが、子育てを楽しむ</u>という、自然環境も絡んでくる話でもあるため、<u>子育てを楽しみながら、だけでもよいのではないかと。</u></p>	<p>○「職住近接」と「子育てを楽しむ」分けた住まう像の提案</p>	<p>○職住近接により、子育てがより楽しくなる住まう像に修正</p>
<p>○住まう像について、<u>現状・課題を踏まえた記載内容にすべき。</u>【第4回作業部会】</p>	<p>○現状・課題を踏まえた住まう像の提示</p>	<p>○各住まう像について、現状・課題を意識した記載内容に修正。</p>
<p>■各住まう像に対する意見</p> <p>【大都市の圧倒的な魅力を楽しみながら住まう】</p> <p>○大阪は他都市に比べて<u>世界に容易にアクセスでき、日本のみならず世界を満喫できる</u>ということも大阪の居住魅力の重要な柱ではないかと思う。</p>	<p>○大都市の魅力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界を満喫できるくらい ・最先端の文化、演劇等に触れることができるくらい 	<p>○関西の中心かつ、アジア・世界との玄関口である強みを活かした住まう像を提示。</p>
<p>○大阪には美術館や博物館、天神祭など、<u>日本有数のものがいくつもあり、それが都市の魅力であるにも関わらず表現されていない。</u>演劇でも最先端のものがくるなど、<u>そういったことを都市の魅力として記載することが必要ではないか。</u></p>		

5. 大阪に住まう将来像

委員意見	論点の整理	対応案
<p>【歴史、文化に囲まれて住まう】 ○町家や長屋を「カフェに活用」「リノベーション」とあるが、今の流行りの書き方であり、<u>大阪の居住文化を大事にした書き方にした方がよい。</u></p>	<p>○大阪の居住文化を大事にした住まう像の提示</p>	<p>○「きちんと手入れして住まう、四季折々のくらしを楽しむ」を記載。</p>
<p>【学びとともに住まう】 ○「大阪には人気の高い大学」が唐突な感じがするので、「個性豊かな大学」、あるいは「多様な学習に<u>応えられる大学</u>」とした方が適切である。</p>		<p>○「個性豊かな大学」に修正。</p>
<p>【包容力のある大阪で、人のあたたかさに包まれて住まう】 ○大阪は大都市の割に背伸びをせずに住めるまち、個性を工夫して生活するにはもってこいのまちだといえる。</p>	<p>○大都市でありながら持つ魅力 ・つながり豊かなコミュニティ ・先駆的なサービス ・誰もが当事者意識を持っている</p>	<p>○「大都市でありながらつながり豊かな包容力のあるコミュニティが一段と育まれ」、「居住支援などの先駆的な取り組みが展開」、「自分らしくいきいきと」を記載。</p>
<p>○大阪には、<u>大都市部でありながら、つながり豊かなコミュニティや、他都市にはない先駆的な暮らしを支えるサービスがある。また、障がい者が当事者意識を持って、生活を良くしようという活動がとて活発であるので、「当事者として」「生活者として」だれもが生き生きとくらすという、そういった都市であるというのが含まれるといいのではないか。</u></p>		
<p>【豊かな自然を満喫して住まう】 ○将来先細りとなる自治体の後押しとなるような項目を追加する必要があり、例えば<u>リタイアされた方が自給自足の暮らしをされるなど、特殊な住まいのニーズに対応する項目があってもよいのではないか。</u></p>	<p>○自然豊かな農山漁村における住まう像の提示</p>	<p>○農山漁村を将来像に明記するとともに、地域間交流として、「二地域居住等」を位置づけ。</p>
<p>○全国的にも限界集落の問題があり、小さなコミュニティの中だけで活性化することは難しいが、<u>大阪は全域がこじんまりしているため、地域間や市町村間の交流、循環がしやすく、モノやサービスの行き来を促進することが必要である。</u></p>		
<p>■環境にやさしく・調和して住まう ○エネルギー効率の良い住宅・建築物、整った公共交通システムなどにより、<u>1人当たりの炭素排出量が小さい効率の良い住まい方ができるということも大都市の魅力だと思う。一方で不便なくらしを求める人もいると思うが、多くの人に効率のよい暮らしをしてもらおうということをもっと前面に出してもいいのではないかと思う。</u></p>	<p>○環境にやさしい住まう像を実現するためのハード整備の必要性。</p>	<p>○「公共交通の充実」や「住宅・建築物の省エネ化・長寿命化」を反映。</p>

6. 居住魅力あふれる住まいと都市を実現するための具体的な取組み

委員意見	論点の整理	対応案
<p>■理想と現実とのギャップを埋める方策</p> <p>○大阪は職住近接もできるなど住みやすい一方で、街頭犯罪やDV被害も日本一など、理想と現実とのギャップに対してどのように手を打つべきか考える必要がある。</p> <p>■政策連携</p> <p>○今後ますます高齢化が進み、施設や病院が一杯で入りたくても入れなくなるなど、在宅看護や在宅医療の増加が予想されることから、福祉施策を充実させることが必要になると思う。 ⇒住宅と福祉はセットで考える必要があり、住まうことと福祉の融合をもっと前面に出してもよいかと思う。</p> <p>○大阪の都市活力をあげるには経済活力をあげていく必要があるため、企業誘致や中小企業の活力をあげていくことが必要である。</p> <p>○少子化対策は住宅まちづくり政策だけでなく、いろいろな政策とパッケージとして進める必要があり、それらが互いに連携していることがみえてくる必要がある。</p> <p>■人口増加につながる施策</p> <p>○人口増加につながるような子育て環境や住みやすい環境に関する全体像の施策や、外国人の方の居住や留学生の受け入れなど、外国の方々が大阪を選んでもらえる環境づくりといった施策もある。</p>	<p>○将来像を実現するための具体的な方策</p> <p>○様々な政策との連携(福祉、労働)</p> <p>○人口増加につながる施策 ・子育て環境の整備 ・外国人、留学生が住みやすい環境整備</p>	<p>○「大阪に住まう」将来イメージの実現に向けて、具体的な取組みを今後検討。</p> <p>○今後、具体的な取組みを検討</p>